

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270600269		
法人名	社会福祉人花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の郷		
所在地	島根県江津市後地町821		
自己評価作成日	H23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://nllp://kouinyou-c.tukusni-shimane.or.jp/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3270600269&SC
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修として、年4回、専門の講師を招いて認知症研修を行っている。全職員だけでなく、地域の方や他の施設の方にも参加して頂いている。 ・毎日の仏参り、温泉入浴など心身の安らぎの場を提供している。 ・近くに保育所があり、園児との交流もさせてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者のことを一番に考えて対応したいと考えていて、利用者に合わせて足台を工夫したり、好みの温度で食事を提供するなど細やかな心配りをしている。法人として研修に力を入れ、職員は12のプロジェクトの中から自分の希望する研修を行い、「夢を持つ研修」「ヘルパー料理研修」などユニークな取り組みを日々のケアに活かしている。昨年秋から夜勤3人体制をとるようになった。法人職員全員が利用者が安心して生活できるよう協力しあっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域、生活、家庭を創造し活性化する事業」を理念として、地域の方々と関わりを持つことを常に考えている。地域の行事にも参加している。	理念の見直しを行い、これまでと同じように法人の理念を事業所理念として取り組むことを確認しあった。全職員で話し合い共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するデイサービスの利用者が面会に来られたり、こちらがデイサービスに出かけたりして、交流している。	地域の運動会や敬老会、保育園の発表会などの行事に参加したり、利用者の陶芸の作品を文化祭に出展するなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所の依頼で、地域の方に認知症の方の理解や支援方法について話をさせて頂いたり、年4回認知症研修を開き、地域の方への案内もさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスや利用者への取り組み内容について報告し、意見や助言を頂いてサービスに行かせるようにしている。	利用者の状況や取り組みの報告、その時々々の議題で話し合い情報を得ている。地域連携についても他事業所での取り組みを聞き、運営に活かせるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に伝えたり、必要な時にはその都度、電話や訪問して連絡を取っている。	市担当者と日常的に相談をしたり連絡をする関係が築かれていて、情報交換をしながら互いに協力しあいサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、安全の為に、玄関に施錠をしているが、日中は施錠をしていない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の内容を理解することに努め、利用者が自由に生活できるよう支援している。	全職員が統一したケアができるように引き続き研修を継続していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修に参加したり、虐待が見過ごされないように、入所者の様子は常に観察して、注意・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方もおられ、権利擁護に関する研修にも参加しており、研修報告書を閲覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には、十分な説明を行い、理解・納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をもうけたり、年2回の家族会や運営推進会議の時に意見、要望を聞き、見直している。	家族の訪問時や家族会を通し意見を聞いている。家族会には多くの家族が出席し家族同士が交流している。	さらに、積極的に記録物の開示を行い、家族の求める情報の提供を行いながら意見の引き出しに努めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に、意見や提案を聞くようにしている。その他気がついたことはいつでも上司に伝えるようにしている。	職員は意見が言いやすく、会議の場や日常的に管理者や施設長に意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や施設内のプロジェクト等に参加し、日々研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市として部会を立ち上げてそこで他の事業所との交流をしたり、ネットワーク作りや勉強会の場としているが、まだ回数が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に会う時に、本人に不安を与えないように話しやすい雰囲気を作るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ、家族の困っていること、不安なこと、望むこと等が聞けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず、その時に必要としている支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態で、できることを一緒にしており、洗濯や調理、掃除等を一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を連絡したり、面会に来られた時にも家族と話し、本人の様子を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで行っていた店や場所、自宅にも行ったりし、地域の方がデイサービスに来られた時には、立ち寄ってもらったりしている。	自宅に行ったり、家族と外出したり、デイサービスに来ている人と交流するなど、利用者の思いを大事にしながら継続した支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、みんながホールにいる時は声かけをしたり、誘いに行き利用者同士が関われるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された方の面会に行ったり、家族に出会ったときに様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いが伝えられる方には、話を聞き、困難な場合はこちらから声をかけ、選択肢をもうけて本人の反応を見て判断している。	1対1で話を聞いたり、思いを伝えにくい人には散歩や保育園児と接することで気分転換を図り思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント用紙に今までの生活歴、生活環境を聞きとり記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の様子を見ながら、より良く暮らせる為のケアを本人・職員間で話し合い、家族面会時や担当者会議で意見を聞き、現状に沿った計画が作成できるようにしている。	家族、管理者、担当職員が参加して定期的に担当者会議を開き、利用者、家族の思いを反映させた具体的な内容で計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践の結果、気づき等を個別記録に記入し、情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応しているが、サービスの多機能化までは取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を聞きながら、地域よりの案内に参加できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が納得のいくかかりつけ医になっており、定期的に受診し、体調の変化時にはかかりつけ医と連絡を取り、適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医の理解があり、夜間、祭日も安心できる体制がある。定期的な往診や受診、必要に応じて他科受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職やかかりつけ医の看護師に情報や気づきを伝え、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は病院の相談員に連絡を取り入院中の様子を聞いたり、相談したりと連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、うちの事業者ができることについて説明し、家族と話し合うようにしている。	看取りは困難だと思いはあるが、利用者、家族の気持ちを尊重し、利用者の状態を見ながら職員全員が協力し合い最大限の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法の講習を受けているが、定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回実施しており、利用者の避難方法等は行っている。地域との協力体制も築いている。	地域の人にも緊急連絡網に組み入れ訓練にも参加してもらっている。年2回定期訓練を実施しているが、回数を増やすことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけ、対応をしている。	利用者を「さん」づけで呼ぶことを話し合ったり、トイレ誘導も無理強いせず気分転換をしたりタイミングを見て声をかけるなど、利用者を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の考えが言える方には、本人の思いや希望を聞いて自分で選んでもらえるようにしている。判断の難しい方にも声かけを行い、反応を見て判断するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、本人のペースに合わせて、その日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、本人に服を選んでもらったり、本人のなじみの美容室に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや食べたい物を聞いて、できることを職員と一緒にしている。	ユニットによって利用者の状況が異なるが、準備や食器洗いなど、利用者の持っている力を活かし一緒に行っている。職員も同じテーブルを囲み和やかな場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のある方や男性には多くしたり、少食の方の方は小盛りにしている。むせのある方や、飲み込みにくい方には、とろみをつけたりミキサー食にしたりと個々の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態に合わせた口腔ケアができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導をしたり、本人の排泄のサインをくみ取りながら、トイレに誘導して、トイレでの排泄を心掛けている。	利用者の状況に合わせて一緒にトイレまで行ったり、時間を見ながら誘導しできるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によい食品の利用や運動、水分補給に心掛けたり、腹部マッサージをして便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴を行っているが、入浴の時間については、難しい所もある。個々に沿った支援に心掛けている。	温泉を使用し、その時その時に声をかけ希望に沿った支援をしている。嫌がる人にも保育所に行って気分を変えその後入浴するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子やその時々状態に合わせて休息できたり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的等把握できるようにしており、服薬の支援と症状の変化の気を付けており、必要に応じて主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴から草とり、調理等力が発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日希望や様子を見て、外に出かけたりしている。	隣接する保育所や買い物、散歩に行ったり、家族と外出するなど支援している。利用者同士自由に日光浴を楽しんでいる。腰痛で外出を嫌がる人にも車椅子で外へ出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、自分で買い物をしてお金の支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に届いた手紙は、本人や家族に渡している。電話は、ホールにあるので取り次いだり、かけられるようにしている。携帯電話を持っている方は、自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の花を飾ったり、行事行事の物を飾り、季節感を感じてもらえるようにしている。	雛飾りや花など季節感が感じられる環境作りをし、昔の生活の写真を飾り話題を提供したり利用者の作品展示コーナーもある。一人ひとりの居場所があり、1ユニットは新たに和室を作った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	囲いのあるたたみの部屋やホールの隅に小さなテーブルやいす等を置いて過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使い慣れたものや馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。又、本人や家族の写真を貼って、安心して過ごしてもらえるようにしている。	馴染みの家具や写真、好きな花などを置き、利用者に合わせた居室作りをしている。家族に職員の思いを知らせ利用者の大事なものを持ってきてもらうように話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがあり、利用して安全に歩けるようにしている。距離のあるところは途中に椅子を置いて休めるようにしている。		